

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版、4/2020年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)グランドメゾン池下ザ・タワーⅡ	階数	地上39F地下1F
建設地	名古屋市千種区寛平山通七丁目11番3他9筆、池下二丁目63番2他1筆	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	800 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2022年5月31日
敷地面積	3,587 m ²	作成者	
建築面積	912 m ²	確認日	2022年6月3日
延床面積	26,602 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.8

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★★ B:★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア=3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア=3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア=3.0

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア=4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア=3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 都会に相応しい先進的なデザインとしつつ、足元は歩道上公開空地や四季を彩る緑豊かなランドスケープを計画し環境への配慮を行った。		その他 特になし
Q1 室内環境 室内環境向上を目指し、F☆☆☆☆建材を使用する。	Q2 サービス性能 耐久性に優れた建物を計画する。	Q3 室外環境(敷地内) 今回は隣接するタワーマンションの二期の計画だが、一期と併せたランドスケープ計画、都会に住みながらも自然を五感で感じられる計画とした。
LR1 エネルギー 住棟、住戸毎でBEE≤0.80を満たしている。	LR2 資源・マテリアル ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能なようにしている。 ・有害物を含まない建材を使用している。	LR3 敷地外環境 ・適切な駐車スペースを確保しています。 ・LCCO ₂ の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

(仮称)グランドメゾン池下ザ・タワーⅡ

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.2
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。